

トラック運送業界とSDGs

特別編

宮崎県トラック協会のSDGs推進への取り組み

独自の「SDGs宣言会員登録事業所」登録制度を開始

広報活動を通じ業界への理解を促す

宮崎県トラック協会(会長 牧田信良)では、令和5年4月に「宮崎県トラック協会SDGs宣言」を実施。会員を対象とした「SDGs宣言会員登録事業所」登録制度を開始し、SDGs宣言の理解を促すための広報活動に取り組んでいる。

「業界の地位向上に繋がるSDGs」制度開始を機に取り組みの輪を拡げる

令和3年4月、宮崎県トラック協会への加盟を検討。理事内におけるSDGsの普及・啓蒙および連携・協働を促進する目的に、民間企業として同プラットフォームに加盟している。宮崎県トラック協会(約460社)の中には、SDGsプラットフォームが設立された。SDGsの目標や各項目の内容が、多様な環境対策や人手不足・働き方改革の推進など、トラック運送業界を取り巻く課題への対応に密接に関係していることから、宮崎県トラック協会では「SDGsへの取り組みが業界の地位向上に繋がる」と考え、同プラットフォーム

第1回宣言書交付式で21社を認定 「取り組みやすさ」訴え登録拡大へ

宮崎県トラック協会は、会員同制度への登録を呼びかけるにあたり、登録手続きに必要となるSDGs宣言のフォーマットを作成し、会員に対しての取組を「環境」「人権・働きがい」「地域・社会貢献」の項目ごとに書き込む方式を採用した。併せて、トラック運送事業者が関連する内容をSDGsの17の目標に事例として落とし込み、事業者が日常的に行っている事故防止対策や環境負荷軽減、人材確保・育成、働きがいのある職場づくり、社会貢献活動といった取り組みがどの目標に該当するかを、会員事業者が



7月24日に行った第1回「SDGs宣言書交付式」では、宣言書を受け取った9社が牧田会長から宣言書を受け取った。

宮崎県トラック協会「SDGs宣言会員登録事業所」(登録順、9月1日現在)
 株式会社マキタ運輸、(株)山下商事、(株)マキタエクスプレス、元明運送(株)、(株)キング運輸、(株)トミシマ、旭運輸(株)、井上運輸(株)、(株)桐原商事、新日本ロジック(株)、(株)長野トランスポート、宮崎営業所、宮崎運輸(株)、草水運送(株)、都城運輸(株)、(株)昇栄運送、(株)古川興業、(合)ティープラス、(株)戸高物流、(株)ダイユウ、(株)佐土原運送、(株)中央運送

取り組もう！ 運送事業所におけるSDGs

宮崎県トラック協会は、会員登録事業所登録制度の開始にあたり、トラック運送事業者が関連する内容をSDGsの17の目標に事例として落とし込んだ「運送事業所の取組事例」(二次元コード)を、宮崎県トラック協会ホームページで公開している。宮崎県トラック協会では会員に対して、同資料を参考に、取り組みやすい内容からSDGs推進に向けた取り組みを行うよう呼びかけている。

トラック運送事業者のための

経営のヒント

トラック運送業界に「2024年問題」に対する事業者の意識や実態、対応状況などに関する調査結果を発表している。各調査によって結果に多少の差はあるが、それぞれ参考になる。だが最近、「全日本トラック協会」の調査では、把握に限りがあるのではなかろうかという声も聞かれる。「2024年問題」について、独自に調査を行っている地方トラック協会もある。それらと比較してみると、地方によって差があることに気づく。関係者の話などから分かってきたのは、「2024年問題」への対応において、あえて表現するならば「ロケーション・デバイド(立地的差)」とでもいえるべき実態があることである。

物流ジャーナリスト 森田 富士夫

時短と「ロケーション・デバイド」

高い。その運送を担っているのが地元の中小事業者である。そのようななかで、「当県は首都圏に荷物を運んでいく事業者が多い。首都圏との距離が500キロ以下なので、調査はしていない。来年3月までには大半の事業者が90時間を超えて、2マン運行、フェリー輸送などがある。なかには、ダブル連結トラックによる中継輸送方式を導入して成功しているケースもいくつか取材した。だが、これら輸送の仕組みの革新は、中小規模の事業者では他社との提携が必要なのではないか。さらに「原資の確保、すなわち運賃・料金の値上げが不可欠だ。また、長距離輸送の労働時間短縮ではリドタイムの延長も有効な方法の一つだ。実際に農産物の輸送で市場までのリードタイムを1日延長した県もある。この「リードタイム」の延長は、地元事業者ではなく、地元業界が一体になった取り組みが必要である。



「持続可能なみやまの物流構築」のための総決起大会

宮崎県トラック協会は近年広がり、SDGsをはじめとした様々な取り組みについて広報媒体等を通じて広く発信し、業界の地位向上に寄与している。今年8月31日には、県内の会員事業者はもとより、荷主企業や一般消費者をはじめ、関係行政官庁や関連業界・団体等の参加者約350人が一堂に会し、「持続可能なみやまの物流構築」のための総決起大会を開催(本紙10月1日号にて既報)。関係者の総力を結集し、持続可能な物流の構築に



宮崎県協会は「トラックの森づくり」(写真①)や「緊急支援物資輸送」(写真②)など、様々な社会貢献活動を展開している。



取り組みなどを広く周知 「業界を応援する仲間たち」を増やす

宮崎県トラック協会は「SDGs推進に向けた取り組みは、荷主や一般消費者が業界への理解を深めるのに非常に有効であると考えています。今後も、SDGs推進に向けた取り組みをはじめ、様々な社会貢献活動を展開している。広報活動を通じ、トラック運送業界が社会貢献に努めていることを、荷主企業や一般消費者などに対して広く周知。業界の取り組みを多くの人が理解してもらいたい。」(同)

「SDGs推進に向けた取り組みは、荷主や一般消費者が業界への理解を深めるのに非常に有効であると考えています。今後も、SDGs推進に向けた取り組みをはじめ、様々な社会貢献活動を展開している。広報活動を通じ、トラック運送業界が社会貢献に努めていることを、荷主企業や一般消費者などに対して広く周知。業界の取り組みを多くの人が理解してもらいたい。」(同)

ワクワクするNEWSが走り出す。

いすゞ エルフ

地球の「運ぶ」を創造する

ISUZU

誕生! **新型 ELF**

選べる自由、それが「運ぶ」の未来。

GOOD DESIGN AWARD 2023年度受賞

新型エルフの特長

- New Lineup** ディーゼル車に加え、新開発手法「I-MACS」により、共通プラットフォームでEV車を新たにラインナップ。
※ I-MACS: Isuzu Modular Architecture and Component Standard
- New Design** 先進性あふれる内外装に一新「運ぶ」を担うドライバーに、ワクワクと喜びを感じられるデザインを追求。
- New Hospitality** ドライバー目線の開発で、乗る人/使う人への深い思いやりを具現化。働くクルマに「ホスピタリティ」という新しい発想を。
- New Economy** 新開発9速AMT「ISiM(アイシム)」が、卓越した燃費性能とトラックのイメージを塗り替えるスムーズな走りを実現。
- New Safety** 事故のない社会を目指し、先進の安全運転支援技術を多数採用。
- New Connected** ドライバーとつながる機能を加え、いすゞコネクテッドをいちだんと進化。

お問い合わせは、お近くのいすゞ販売会社または、いすゞ自動車(株)お客様相談センターへお願いします。0120-119-113 9:00~12:00、13:00~17:00 月曜~金曜(除く所定の休日) <https://www.isuzu.co.jp> シートベルトをしめ、スピードを控えた安全運転を。点検・整備をしっかりしましょう。